



「土佐先生が今度ウチ(養正館)に指導に来てくれるんですが、その日取材に来ませんか？」
本誌で連載中の渡辺貴斗先生からこのような電話をいただき、お二人の雰囲気の違いから、何か違和感を覚えた。不思議な興味を抱いて訪問を決めた。

意気投合。二世空手家の教育談義 渡辺貴斗×土佐樹誉彦

◆道場の考え方がソックリ！

渡辺：ある稽古会で初めて土佐先生に出会うこととなりました。競技者として遠くから見ていましたから、強くて怖い相手選手、という勝手なイメージでした。出会ったその日も「あっ土佐だ！」って、有名人に出逢ったという感じでした。ところが発言とか、子供達と接する姿を見ていて、第一印象が大きく変わっていくことに気がつきました。

土佐：体が大きく、こういう風貌ですからどうしても第一印象は怖い奴と思われてしまいます(笑)。



●土佐樹誉彦(とさ・きよひこ)
1977年3月生まれ。2014年1月国際玄制流空手道連盟武徳会二代目会長襲名。1997年から全空連ナショナルチームの重量級のエースとして、団体準優勝3回、アジア大会団体戦優勝2回、準優勝1回、個人戦3位、ワールドゲームス、世界大会出場など多数の戦績をもつ。2004年の全日本では準決勝で伝説の男・松崎に敗れ惜しくも3位。東日本大震災後「震災・災害復興支援 Save Japan through Karate Do. Say OSS! プロジェクト」を立ち上げ、復興支援を継続している。2017年から(公財)全日本空手道連盟ナショナルチームコーチ。

渡辺：「子育て・声かけ・礼儀しつけ」に関して私たちの道場の考えとすごく似てるということに気がついて、印象がガラッと変わりました。次々と色々な話しをしていって、その日のうちにすっかり意気投合してしまいました。

土佐：そうなんです。渡辺先生と話をしていると、「あれも、これも、それも違っているところが無いな」と感じました。そのようなわけで先生の道場にぜひお伺いしたいと、今回押しかけてきました。

渡辺：土佐先生も私も、親が町道場を起こし、それを継承した二世という点や、若い頃は親元を離れたかったことも似てますよね。似てないのは身長^{あさ}の極端な違いですね(笑)。

土佐：私も空手が嫌だという一心で、高校は岩手県を選びました。岩手ではボクシングかラグビーをやりたいかったんですが、ボクシング部は無く、ラグビー部はあまり強くなかったので中学から少しベースなどをやっていたこともあり、軽音楽部に入りました。下宿先のご主人が、ふらふらしている私を見ていて、どうせなら道場があるから行ったらどうだ……ということで、半ば強制的に奥州市水沢にある、糸東会・佐々木道場に通うことになり、佐々木寛治先生に師事することになりました。そこでは、通常の稽古と合わせて地稽古も行なっており^{あさ}ただらけ。

くそー！って稽古に身が入りました。結局空手が嫌だったのではなく、親から離れたかったんですね。そこから空手一筋で、大学は大阪に行きました。進学した大阪経済法科大学では長田芳行監督（現・総監督）に師事しました。

◆「失敗論」……失敗から学ぶ

渡辺:土佐先生からブログを見てくださいと言われ、早速拝見したんです。読めば読むほど、そうそう、分かる分かるって頷^{うなず}いている自分がありました。その中に「大切なのは、失敗できる勇気があるかどうか。何事もやってみなければわからない。失敗を恐れて何もしない事が一番だめ。やって必ず成功する事なんてほとんどない。稽古で普段やっている事しかできない。本番でどうにかしようたってそんなに甘くない」という文に、大きく頷きましたね。

土佐:ありがとうございます。失敗というのはその人にしか経験できないことで、失敗があるから先に進めるんだと思うんです。

渡辺:そうですね。私も連載で「失敗論」というテーマで書こうと思っていました。今流行りのコーチングなんかでは、いわゆるポジティブシンキングで成功イメージを持ってというけれど、私は「失敗を丸ごと受け入れる」ことが重要と考えています。だから失敗の仕方も練習してみる。ああ、こうやるからこう失敗するんだとわかってしまえば本番で動じない。失敗しそうでも、失敗の仕方を熟知^{じゆくち}しているので、慌^{あわ}てずに立て直すことができるんです。

土佐:そうそう。失敗がダメではなく、失敗したから一歩先に進めるんです。子供も最初は失敗を恐れてません。ところが最近の親は、失敗したら子供が可哀想だと思い、失敗しないように先回りするんです。親が目先の結果にこだわり過ぎだと思うんです。

◆キーワードは「自立」

土佐:私は、親御さんになるべく早く親元から離してくださいと言います。親の影響がないところで色々な経験をして自立していくことが大切です。SAY OSS! で、岩手や宮城、アメリカなどに子供た



●渡辺貴斗（わたなべ・たかと）

1968年4月生まれ。日本空手道鴻志会養正館道場二代目館長。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子供たちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年全少5名入賞、2014年・2015年と2年連続で7名入賞、2016年5名入賞、2017年9名入賞させ、全国最多入賞数の記録更新中。2017年全日本少年少女武道錬成大会で念願の優勝旗を1本奪取。

ちを連れて行き、合宿や試合をするのですが、親元を離れ、自分で考え自分で行動することで自立を学びます。

渡辺:そう！結局は学校教育でも、道場の学びでも、キーワードは「自立」なんですね。昔は大家族で子育てしていたから、祖父母が子育ての先輩として注意してくれました。しかし、今は核家族ですから、いつ子供に対する干渉を止めれば良いかすら分からない。子供が自立できないのは親が子離れできないところに原因があることに気づかない。

土佐:だから私は子供たちをあちらこちら連れ回します。色々なところに行っているいろんな経験をする。それがその子にとって判断を迫られた時、絶対役立つ。なぜなら人間は自分の経験・体験してきた中でしか判断が出来ないからです。であれば、その選択肢は多いほうが良い。その原体験、引き出しを増やすことが私達指導者、親の役割だと考えています。そしていろんなところに行くことで知らない人と出会い友達になり、新たな発見をする。そうすることが必ずご縁になりますね。ご縁がご縁を呼んで未来が開けるんだと思います。

渡辺:そうですね。子供が大切だから、と何でもかんでも親が手をかけ過ぎて、過干渉をするということは、その子を結局自立しないように仕向けていることですからね。お互いどう思われようと子供を親から引き離していきましょうね。

*編集部／お二人のお話、ここにご紹介したのは、ほんの一部分です。今後不定期になりますが、お二人の教育談義を誌面でご紹介させていただきます。指導者の立場、親の立場、選手の立場で色々考えさせられると思います。次回この誌面で渡辺先生、土佐先生に再会できるのを楽しみにしてください。